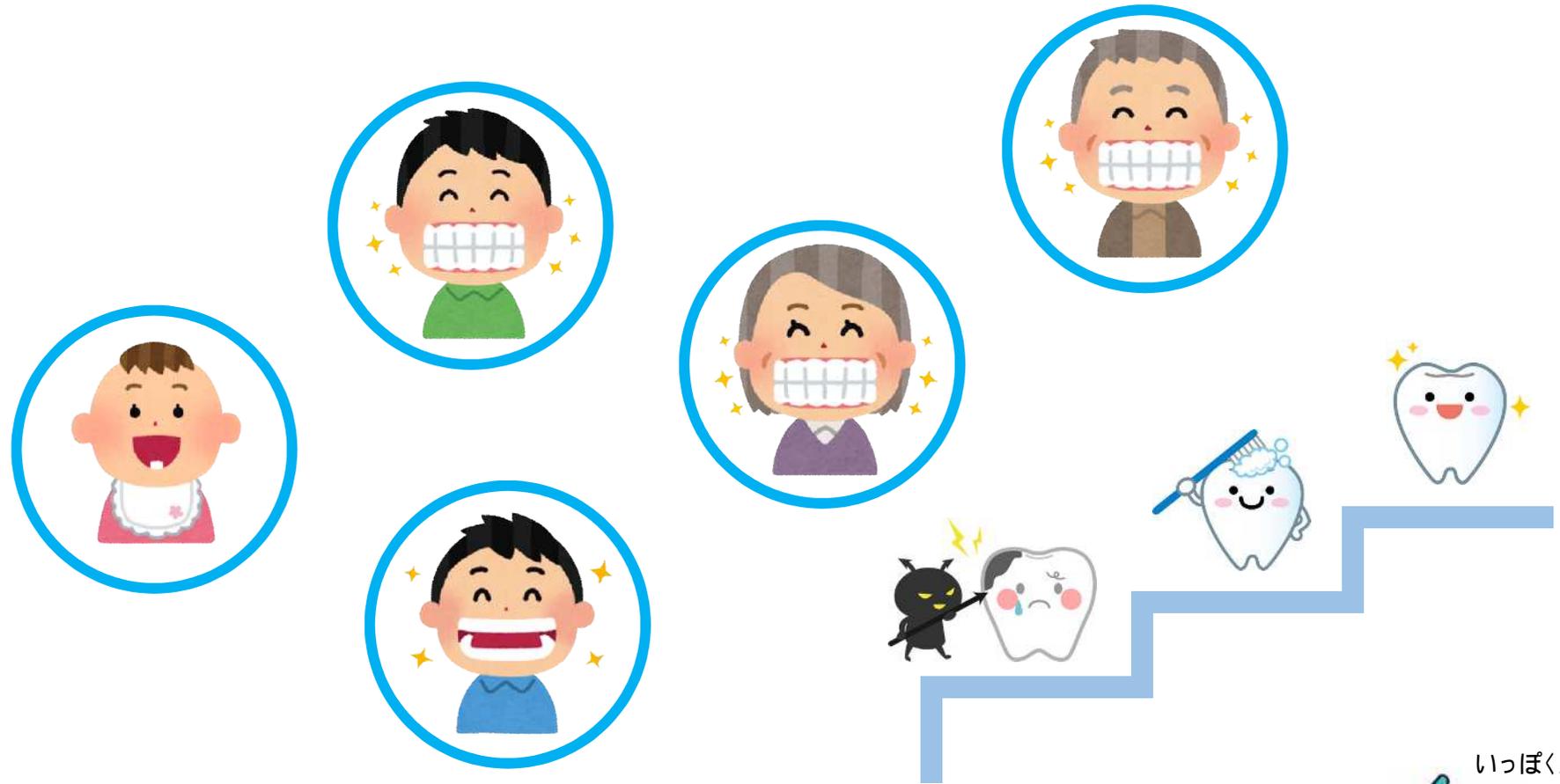


大阪市歯と口腔の健康づくり アクションプラン



大阪市

令和2（2020）年3月





もくじ

第1章	大阪市歯と口腔の健康づくりにおける基本的な考え方	
	1 これまでの歯と口腔の健康づくりに関する取組み	P 1
	2 アクションプランの基本的な考え方	P 1
	3 アクションプランの期間	P 2
第2章	大阪市歯と口腔の健康づくりにかかる取組みと指標	
	大阪市歯と口腔の健康づくりにかかる取組みと指標	P 3
第3章	ライフステージに応じた大阪市歯と口腔の健康づくりの推進に向けた取組み	
	1 乳幼児期	P 4
	2 学童(学齢)期	P 5
	3 青壮年(成人)期(妊産婦を含む)	P 6
	4 高齢期	P 7
第4章	大阪市歯と口腔の健康づくりを支える社会環境整備(分野別の展開)	
	1 かかりつけ歯科医での予防管理の推進	P 8
	2 サポートを必要とする方(障がい(児)者・介護を必要とする高齢者)の支援	P 8
	3 災害時における歯と口腔の健康づくり	P 8
第5章	大阪市歯と口腔の健康づくりアクションプランの進捗管理について	
	大阪市歯と口腔の健康づくりアクションプランの進捗管理について	P 10
参 考		
	大阪市歯と口腔の健康づくり推進条例	P 11
	大阪市健康増進計画「すこやか大阪21(第2次後期)」	P 13
	第2次大阪府歯科口腔保健計画	P 15

掲載の各指標については、注釈のあるものを除き、大阪市健康増進計画(すこやか大阪21(第2次後期))から引用



第1章

大阪市歯と口腔の健康づくりにおける基本的な考え方

1 これまでの歯と口腔の健康づくりに関する取組み

大阪市では、平成13(2001)年に「全ての市民がすこやかで心豊かに生活できる活力あるまち・健康都市大阪の実現」を基本理念に大阪市健康増進計画「すこやか大阪21」を策定し、ライフステージに応じた生活習慣の改善に取り組むべき事項の1つとして、「歯・口腔の健康」の分野を設けました。

これまでの取組みを踏まえ、平成30(2018)年3月に「すこやか大阪21(第2次後期)」において歯・口腔の健康における目標値の設定及び改訂を行いました。

また、「歯科口腔保健の推進に関する法律」、「第2次大阪府歯科口腔保健計画」、「すこやか大阪21(第2次後期)」、「第3次大阪市食育推進計画」及び他の関連計画の主旨を踏まえ、平成30(2018)年4月から「大阪市歯と口腔の健康づくり推進条例」を施行し、乳幼児期から高齢期までの生涯にわたる歯・口腔の健康の推進に努めています。

2 アクションプランの基本的な考え方

(1) アクションプランの主旨

健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目指すには、歯と口腔の健康は基礎的かつ重要な役割を果たしており、歯周疾患の予防・治療などによる歯と口腔の健康の保持及び増進に向けた取組みが大変重要です。

すこやか大阪21(第2次)の最終評価では、「歯・口腔の健康」の指標において、着実な成果が認められ目標値に達した指標があったものの、「80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加」のように目標値に達していないが改善傾向にある指標や「40歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の減少」のように改善を必要とする指標が見受けられました。

今後、「大阪市歯と口腔の健康づくり推進条例」、「すこやか大阪21(第2次後期)」、「第3次大阪市食育推進計画」及び他の関連計画の主旨を踏まえ、乳幼児期から高齢期までの生涯にわたる歯と口腔の健康づくりについて、より効果的に取組みを進めるため「大阪市歯と口腔の健康づくりアクションプラン」を策定します。

(2) アクションプランの位置づけ

すこやか大阪21(第2次後期)における「歯と口腔の健康づくり」についての課題や進捗管理方法などを示した行動計画書です。

(3) アクションプランの構成

アクションプランは、次の考え方に基づき構成しています。

- ・市民が、歯と口腔の健康づくりに関する正しい知識を持ち、生涯にわたり日常生活において歯科疾患の予防に向けた取組みを行うとともに、歯科疾患治療を早期に受けることを促進すること。
- ・乳幼児期から高齢期までのそれぞれの時期における歯及び口腔とこれらの機能の状態並びに歯科疾患の特性に応じて、適切かつ効果的に歯と口腔の健康づくりを推進すること。
- ・保健、医療、社会福祉、労働衛生、教育その他の関連施策の有機的な連携を図りつつ、その関係者の協力を得て、総合的に歯と口腔の健康づくりを推進すること。

なお、「歯と口腔の健康づくり」における各指標を達成するため、ライフステージ別に課題を明確化し、その対策の方向性と具体的な取組みを記載しています。

3 アクションプランの期間

本アクションプランの期間は、「第2次大阪府歯科口腔保健計画」、本市の「すこやか大阪21(第2次後期)」及び他の関連計画との整合性を図るため、令和2(2020)年度から令和5(2023)年度までの4か年を対象とします。

今後、本アクションプランについては、新たな課題が発生した時など、必要に応じ再検討を行い、適宜見直しを行います。



第 2 章

歯と口腔の健康づくりにかかる取組みと指標



	特 徴	主な疾患				取組み	指 標
 乳幼児期 (0歳～6歳未満)	乳歯が生え、食べる機能を獲得する時期	乳歯むし歯				早い時期からのむし歯(う蝕)予防として、正しい歯磨き方法を定着 食育計画と連携した「食べる力」を育む取組みの推進	3歳児でむし歯(う蝕)がない者の割合の増加 平成27(2015)年度 80.8% 令和5(2023)年度 83%以上
 学童(学齢)期 (6歳～18歳未満)	乳歯から永久歯に生えかわる時期		永久歯むし歯		歯周病	むし歯(う蝕)予防として、正しい歯磨き方法の定着 食育計画と連携し、噛み方や食べる速さにも着目した「よく噛んで味わって食べる力」を育む取組みの推進	12歳児の一人平均むし歯(う蝕)数の減少 平成27(2015)年度 0.86歯 令和5(2023)年度 0.84歯未満
 青壮年(成人)期 (妊産婦を含む) (18歳～64歳)	歯周病の増加と悪化が進む時期		歯根部のむし歯			歯周病検診の受診者の増加 食育計画と連携し、噛み方や食べる速さに着目した「よく噛んで味わって食べる」重要性の理解の促進 かかりつけ歯科医師をもち、定期的に受診する必要性の啓発 働き世代の歯の喪失予防の取組みの推進 歯周病と全身疾患(糖尿病等)との関連性の啓発	過去1年間に歯科健診を受診した者の割合の増加(40歳以上) 平成28(2016)年度 49.3% 令和5(2023)年度 61%以上 40歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の抑制(40～49歳) 平成27(2015)年度 44.9% 令和5(2023)年度 44.9%以下
 高齢期 (65歳以上)	歯の喪失が進み、口腔機能が低下する時期					食育計画と連携し、噛み方や食べる速さに着目した「よく噛んで味わって食べる」重要性の理解の促進 低栄養の防止・誤嚥性肺炎の防止・口腔機能の向上に関する普及啓発 かかりつけ歯科医師をもち、定期的に受診する必要性の啓発	60歳代における咀嚼く良好者の割合の増加(60～69歳) 平成28(2016)年度 68.4% 令和5(2023)年度 80%以上 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加 平成28(2016)年度 42.5% 令和5(2023)年度 50%以上

第3章 ライフステージに応じた歯と口腔の健康づくりの推進に向けた取組み

1 乳幼児期 (0歳～6歳未満)		指標と目標値	現状値	目標値
		3歳児でむし歯(う蝕)がない者の割合の増加	80.8%	83%以上
現状と課題 (平成28(2016)年度)	取組みの方向性	具体的な取組み		
		令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	調査年 令和4(2022)年度
				評価年 令和5(2023)年度
<p>(現状) 3歳児でむし歯(う蝕)がない者の割合は増加している。</p> <p>平成22年度(2010) 77.5% 平成27年度(2015) 80.8%</p> <p>(課題) 将来の永久歯に影響する乳歯の役割を理解し、乳歯を健全に保つ必要があることを、保護者などに理解してもらうことが必要である。</p> 	 <p>早い時期からのむし歯(う蝕)予防として、正しい歯磨き方法の定着</p> <p>食育計画と連携した「咀嚼機能の獲得」・「食べる力」を育む取組みの推進</p>	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳歯のむし歯(う蝕)予防の推進 ・「咀嚼機能の獲得」・「食べる力」を育む取組みの推進 <p>【こども青少年局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3か月児健康診査時の離乳食指導 ・離乳食講習会 ・1歳6か月児健康診査(幼児歯科保健個別指導・フッ化物塗布) ・3歳児健康診査(幼児歯科保健個別指導・フッ化物塗布) <p>【健康局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に対する歯科保健の普及啓発及び口腔衛生指導 ・健康講座等による歯科保健の普及啓発 ・食育講座 		

<h2>2 学童(学齡)期</h2> <p>(6歳～18歳未満)</p>		指標と目標値 12歳児の一人平均むし歯(う歯)数の減少		現状値 0.86歯	目標値 0.84歯未満
現状と課題 (平成28(2016)年度)	取組みの方向性	具体的な取組み 調査年 評価年 令和2(2020)年度 令和3(2021)年度 令和4(2022)年度 令和5(2023)年度			
<p>(現状) 12歳児の一人平均う歯数は減少しており、全国平均より低い。</p> <p>【国】 0.84歯 【大阪市】 0.83歯 国:平成28(2016)年学校保健統計調査(文部科学省)</p> <p>【大阪市】 平成22年度(2010) 1.25歯 平成27年度(2015) 0.86歯</p> <p>(課題) 生活習慣や食習慣が不規則になりやすい世代に対する適切な生活習慣の維持が重要である。</p> 	 <p>むし歯(う蝕)予防として、正しい歯磨き方法の定着、食育計画と連携した、噛み方や食べる速さにも着目した「よく噛んで味わって食べる力」を育む取組みの推進</p>	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永久歯のむし歯(う蝕)予防、歯周疾患の予防の推進 ・噛み方や食べる速さにも着目した「よく噛んで味わって食べる力」を育む取組みの推進 <p>【教育委員会事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯みがき指導(小学校2年生) ・フッ化物塗布(小学校4年生) ・歯・口の健康教室(小学校6年生) <p>【学校独自の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯・口の健康づくり(中学校) <p>【健康局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科保健の普及啓発及び口腔衛生指導 ・講座等による歯科保健の普及啓発 ・食育講座 			

3 青壮年(成人)期 (妊産婦を含む) (18歳～65歳未満)		指標と目標値	現状値	目標値						
		過去1年間に歯科健診を受診した者の割合の増加(40歳以上)	49.3%	➡ 61%以上						
		40歳代で進行した歯周炎を有する者の割合の抑制	44.9%	➡ 44.9%以下						
現状と課題 (平成28(2016)年度)	取組みの方向性	具体的な取組み								
<p>(現状) 過去1年間に歯科健診を受診した者の割合は減少している。(40歳以上)</p> <table border="0"> <tr> <td>平成23年度 (2011)</td> <td>平成28年度 (2016)</td> </tr> <tr> <td>51.4%</td> <td>49.3%</td> </tr> </table> <p>40歳代で進行した歯周炎を有する者の割合は増加している。</p> <table border="0"> <tr> <td>平成23年度 (2011)</td> <td>平成28年度 (2016)</td> </tr> <tr> <td>37.0%</td> <td>49.9%</td> </tr> </table> <p>【国】43.5%(H24) 49.4%</p> <p>国:平成28(2016)年国民健康・栄養調査</p> <p>(課題) 過去1年間に歯科健診を受診した者の割合は、健康増進計画(すこやか大阪21(第2次))から、目標の61%以上に達していない。40歳代で進行した歯周炎を有する者の割合は、国と同様に増加している。</p>	平成23年度 (2011)	平成28年度 (2016)	51.4%	49.3%	平成23年度 (2011)	平成28年度 (2016)	37.0%	49.9%	<p>歯周病検診の受診者の増加</p> <p>食育計画と連携し、噛み方や食べる速さに着目した「よく噛んで味わって食べる」重要性の理解の促進</p> <p>かかりつけ歯科医師をもち、定期的に受診する必要性の啓発</p> <p>働き世代の歯の喪失予防の取組みの推進</p> <p>歯周病と全身疾患(糖尿病等)との関連性の啓発</p>	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周病予防及び歯の喪失予防の推進 ・80歳になっても20歯以上自分の歯を保つための運動の推進(8020運動の推進) ・噛み方や食べる速さに着目し「よく噛んで味わって食べる」ことの重要性の啓発 ・関係職種への口腔機能向上に関する研修 <p>【健康局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科健康相談 ・歯周病検診 ・口腔衛生指導(訪問含む) ・地域健康講座等による歯科保健の普及啓発 ・地域・職域に対する歯科保健の普及啓発及び口腔衛生指導 ・食育・骨粗しょう症検診と連携した歯科保健の普及啓発 ・企業と連携した歯周病検診の受診勧奨用ポスターの作成 <p>【こども青少年局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の歯科健診
平成23年度 (2011)	平成28年度 (2016)									
51.4%	49.3%									
平成23年度 (2011)	平成28年度 (2016)									
37.0%	49.9%									

4 高齢期 (65歳以上)		指標と目標値	現状値	目標値		
		60歳代における咀嚼良好者の割合の増加	68.4%	➡ 80%以上		
		80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加	42.5%	➡ 50%以上		
現状と課題 (平成28(2016)年度)	取組みの方向性	具体的な取組み				
<p>(現状) 60歳以上における低栄養傾向 (BMI 20kg/m²) の割合は年々増加している。</p> <p>【国】 【大阪市】 噛めないものがある 12.5% 25.5%(55-64歳) 16.3% 35.2%(75-84歳) 23.9% 50.2%(85歳以上)</p> <p>国:平成28(2016)年歯科疾患実態調査(厚生労働省) 市:大阪市高齢者実態調査</p> <p>80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合は増加している。</p> <table border="0" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>平成23年度 (2011)</td> <td>平成28年度 (2016)</td> </tr> <tr> <td>39.5%</td> <td>42.5%</td> </tr> </table> <p>(課題) 60歳以上における低栄養傾向の割合が国よりも多く、年々増加している。 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合は増加しているが、全国で比べると低い状態である。</p>	平成23年度 (2011)	平成28年度 (2016)	39.5%	42.5%	<p>食育計画と連携し、噛み方や食べる速さに着目した「よく噛んで味わって食べる」重要性の理解の促進</p> <p>低栄養の防止・誤嚥性肺炎の防止・口腔機能の向上に関する普及啓発</p> <p>かかりつけ歯科医師をもち、定期的に受診する必要性の啓発</p>	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8020運動の推進 ・関係職種への口腔機能向上に関する研修 ・噛み方や食べる速さに着目し「よく噛んで味わって食べる」ことの重要性の啓発 <p>【福祉局】</p> <p><高齢福祉課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かみかみ百歳体操等をツールとした介護予防事業（口腔機能向上・歯科保健指導）における普及啓発 ・口腔機能向上に特化した介護予防リーフレットの作成 ・介護予防事業におけるオーラルフレイルチェック（基本チェックリスト3項目） <p>【健康局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科健康相談、歯周病検診 ・講座等による歯科保健の普及啓発 ・歯科保健の普及啓発及び口腔衛生指導 ・食育・骨粗しょう症検診と連携した啓発
平成23年度 (2011)	平成28年度 (2016)					
39.5%	42.5%					